

令和3年度 県立学校による地域との協働推進事業研修会 実施報告

- 《日 時》 令和3年12月17日(金) 13:45~16:15
- 《方 法》 Google Workspace for Education を利用したオンライン研修
- 《参 加》 県立学校による地域との協働推進事業担当者又はコミュニティ・スクール担当者 計 33名
- 《内 容》 13:45~13:50 開会
 13:50~15:00 講演「県立学校における協働推進事業からコミュニティ・スクールへの創造」
 奈良県CSアドバイザー(文部科学省CSマイスター) 高木 和久
 15:10~15:35 グループ討議
 15:35~16:00 情報交換・意見交流
 16:00~16:10 まとめ
 16:10~16:15 閉会

◆ 講演概要

「県立学校における協働推進事業からコミュニティ・スクールへの創造」と題して、地域との連携・協働を核にしたコミュニティ・スクールの創造について御示唆いただいた。

・奈良県の県立学校の協働推進事業の現状として、「全生徒が参画できていない」「学校全体での地域との協働活動に対する目標が明確になっていない」「校内のどの組織が地域連携活動を担うのか明確になっていない」「どこから地域に任せれば良いのか分からない」などの課題が見られる。

・地域との協働活動を、どの教科で何時間使って行うかというカリキュラム・マネジメントを行い、学校全体で取り組む必要がある。

・生徒の発達段階に応じた取組の構築や、3年間で主体的な協働活動の経験値を積み上げるための工夫が必要である。

・特別支援学校で、地域との協働活動を構築していくために、教職員全体が「生徒の課題」や「育みたい生徒像」を共有し、学校が一体化できているかを検証した上で、地域住民と地域資源や自校の生徒の実態について交流していくことが重要となる。そして、生徒の「社会的自立」に向けた卒業までの活動を、カリキュラム・マネジメントを行う中で設定してほしい。特別支援学校の生徒に主体性を育む視点として、地域社会の「障害者理解」や「共生」を含めて考えていくのがよいのではないかと。

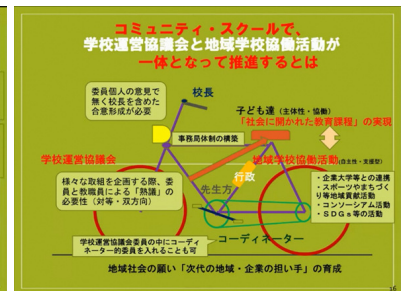
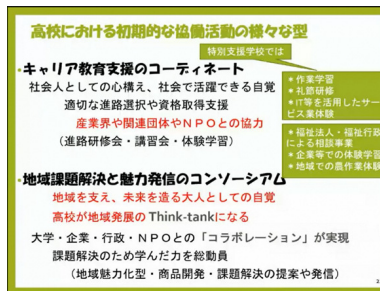
・「どの学校でもうまくいく」という共通の方法はない。各学校の「生徒の実態」、「学校の風土」、「地域の実態」などを把握し、生徒が成長できる取組を自校で生み出してほしい。

・カリキュラム・マネジメントや実際に協働活動を行う上で、自校の生徒の課題やつきたい力について、熟議を通して教職員全体で共有しておくことが重要となる。

・生徒主体の活動に主眼を置き、生徒主体の実行委員会等を設置することにより、生徒の力でP D C Aができるような活動を積み上げていく体制づくりが重要になる。

・これまでの地域との協働活動を基に、生徒が主体的に活動できる取組を、教職員と学校運営協議会委員との熟議を通し、選び出してカリキュラム・マネジメントを行っていく必要がある。それが、「社会に開かれた教育課程」につながる。

・各学校の実態に合わせて、新学習指導要領が求めている、新しい社会を力強く生きていくための力を生徒につける有効なツールがコミュニティ・スクールである。学校運営協議会で熟議された内容を、地域との協働活動に反映することで、生徒の課題解決や成長につなげてほしい。



◆ グループ討議・情報交換・意見交流

・9つのグループに分かれ、「講演により得た新たな視点や捉え方の変化、また、自校で実践してみたいと考えた取組」についてグループ討議を行い、全体で情報交換・意見交流を行った。その後、高木先生に指導助言をいただいた。

《参加者の感想》

- ・今日の講演を拝聴して「児童生徒にどんな力をつけていくのか」を中心に置きながら考えていけばよいことが分かり、納得できました。現状の取組をカリキュラム・マネジメントしながら整理し、形作っていきたいと考えました。また、研修を重ね、進めていきたいと思います。
- ・さまざまな学校の取組についての問題点や解決策を教えていただきありがとうございました。本校にも当てはまる点があると感じました。
- ・校内の熟議の重要性、必要性がよくわかりました。本校でも先生方の熱量に差があり、多様な意見があります。急がず熟議していきたいと思いました。

この研修会全体を通して、「県立学校による地域との協働推進事業」の取組を進めるための知識、理解が深まった。

